

## 住まいあれこれ 「バリアフリーとユニバーサルデザイン」

最近、「バリアフリー」という言葉と共に、「ユニバーサルデザイン」という言葉もよく聞かれるようになってきた。ふたつの違いは、「バリアフリー」が、障害者や高齢者が生活する上での障壁（バリア）を取り除くということに対して、「ユニバーサルデザイン」は、すべての人が可能な限り使いやすいよう配慮（デザイン）するということがある。

この考え方を住宅に反映させるとどうなるか。バリアフリー住宅は、障害をもつ人、行動の不自由な人に対して、どう対処するかということになる。その人の障害の部位や状態に個別に対応したもものになる。これに対して、ユニバーサルデザインの住宅は、特定の障壁に対してではなく、住む人みんなが使いやすいように最初から考えられた住宅ということになる。先ごろ竣工した「三条の家」は、一人の家族のバリアフリーに配慮した設計で、建築的には、段差のない床や各所の手摺、ゆったりした廊下・便所・浴室、設備的には、住宅用エレベーター、自動引戸、座式シャワー、トイレ用可動肘置き、自動水栓等を盛り込んだ。しかし実際には、家族にとっても段差のない床や手摺は、転倒防止に役立つし、広めの廊下は歩きやすく、また、エレベーターは荷物が多いときは大変役立つというように、ユニバーサルデザインと呼べるところも多々ある。言い換えれば、家族に障害者や高齢者がいなくても、将来のことを考えて、ユ



座式シャワー

ニバーサルデザインを設計段階から盛り込むことは、これからの高齢化社会において大切なことであるということである。ただ、問題はコストである。住宅用エレベーターなど取り入れたい設備は多い。どれを取捨選択するかということである。また一方、現段階ですぐに取り入れられない場合はどうだろうか。後から設置するということになれば、ほとんどの場合費用が上がってしまう。



そこで例えば、エレベーターを将来設置する予定なら

ば、上下階の同じ場所に一定のスペースをとり（収納しておく）、廊下や階段との位置関係も考えておけば、いざ設置しても最小限の工事で済む。また、廊下や階段はあとから広くするのは大変なので最初から広めにしておく。あるいは、将来手摺を簡単に付けられるよう壁補強を入れておく。等々が考えられる。

より満足のいく住まいにするためには、設計の段階から、それぞれの状況に応じ、ユニバーサルデザイン（必要に応じバリアフリーも）を盛り込んだ計画をしておくことが、将来的に様々な状況に対応することが可能になるといえるのである。